

支部講演会

日 時 三月四日(日)

雁宿ホール

参加者 六十四名

(一般参加含む)

半田市と常楽寺

西山淨土宗

天龍山常楽寺
住職 榊原是宏様



講演に至るいきさつ

常楽寺は半田市東郷町にあり、以前、山内支部長が参拝した折りに、特別に寺内を拝見させて頂いたこと。この時に奥深いものを感じ、住職よりもっとお話を聞きたいとのことで当講演が実現したのです。

資料として「参拝のしおり」と講演会資料が配布されました。

一 仏教とは

仏教以外の宗教では多くの場合、いろいろな表現がありますが神と人間を区別しています。しかし、仏教では約二千六百年前のインドで、一人の人間が自らの苦しみを取り除くために修行してサトリを

得ました。人々は彼のことを「サトリを得た人」として「ほとけ(ヅツ、ブツダ)」と呼び、敬いました。その人の教えが宗教となつたのが仏教とのことです。

二 常楽寺と徳川家康

当山第八世典空顯朗上人は家康公と、いとこの間柄でした。永禄三年桶狭間合戦の折り、家康公がまだ元康と名乗っていたとき、自軍の大将が討たれ、岡崎に戻ろうとしたが、東の道は敵勢の真っ只中なればかなはず、山路を無我夢中に駆け回り、常滑に出た。その時、衣川八兵という百姓の案内で常楽寺に案内され、休息の後、三河に舟で渡つたとされています。

二度目は天正十年「本能寺の変」の帰路、家康三十九歳。



三度目は天正十七年家康四十六歳、上洛の途次に立ち寄りました。當時の拝領品として鞍・鎧等が現存しています。

三 常楽寺の御本尊

昭和六年国宝指定(現重要文化財)阿弥陀如来 来迎木立像

御本尊の手は来迎の印を結んだ弥陀立像にて像高約八十分、弘長三年七月法橋円覚作と墨書銘され、左足を少し前に出して

いる姿となっています。

当年代の像としては大変に美しい姿となっています。残されているものはめずらしく、この年代の像としては制作年が注目すべき作品とされています。

四 仏とは

仏教ではすべての人は仏の種を宿し、命終わればすべての人が仏になると説いています。

一つの疑問として、「私たちは死後、なぜ仏になるのか。」お迎えに来てもらう。

極楽に往生する。

これは人が死んだことと同意語として使います。

(講演は続く)

講師は限られた時間で素晴らしい説法にて語つていただきました。

五 質疑応答

一般参加の方から「戦没者の墓について」の質問があり、詳しくお話しを戴きました。質問は他にも二点ほどありました。

なお、参考ですが、講師の御尊

父は忍空是久上人光道大和尚と申され天龍山常楽寺第三十四世住職を務められたお方で、平成二十五年にご逝去されました。親子二代にわたり常楽寺をお守りしてみえます。

(杉江花城)

上田良準猊下 なると説く。

阿弥陀仏とははるか昔から未来永劫まで途切れることなく、この宇宙に満ち満ちている。

「生きとして生ける全てのものが『幸せであれと願う力』である」

常楽寺・住職 榊原是宏様講演会

◆常楽寺と徳川家康
創建 元は天台宗仏性寺
資料抜粋
常楽寺様案内パンフレットより

◆徳川家康の名前
天文十一年(一五四三)誕生
幼名 竹千代
今川義元にて元服→松平元信→松平元康→松平家康→徳川家康
桶狭間の戦い
永禄三年(一五六〇)元康十七才
今川義元討たれる

◆常楽寺御本尊さま
手は来迎印 下品上生
像高八〇cm
弘長三年(一一六三)法橋円覚作
左の足を少し前に出している。



第六十八回中日書道展

入賞者（順不同）

第七十回毎日書道展
入賞・入選者(二)

第七十回每日書道展

入賞・入選者(順不同)

準大賞	(漢字)	伊藤東苑	秀作賞	高橋白羊
中日賞	(篆刻)	平富耀	佳作賞	毛利惠風
櫻花賞	(漢字)	東春翠	会友人選者	石川西城
推 薦	(漢字)	田中菜摘	井上泰石	鵜海青汪
(篆刻)		片岡木蘭	長田裕華	片岡昌谷
特 選		榎本翠峰	桜場龍峰	杉浦琇鈴
岡本寧溪	片岡蘭泉	芳村清苑	須田白城	滝本白峰
近藤星蘭	青木和馨		竹内南里	田中華城
準特選			中島千草	片岡木蘭
榎原洸苑	榎原春蘭	清水美苑	荒川惠滉	片岡昌谷
高田秀苑	長坂竹華	長坂麻衣	漢字Ⅰ類入選	桜江花城
長坂結衣	濱屋大樹	田中夕穂	高橋白羊	中川美翠
榎原悠園	中根冬泉		須田白城	竹内南里
守山木乃芽			田中菜摘	中野寿美
秀 逸			田中夕穂	中野寿美
浅井清泉	片桐清風	宍戸春月		
竹内重則	花井志翠	花井里苑		
松本紅楓	森 東雲	谷川鵬竹		
樋口直美	長田正嗣			
山本博信				
獎勵賞				
後藤京花	榎原美峰	永井玲苑	平富耀	
長野秋蘭	山口翠螢	貴島小舟	東春翠	
佳 作				
石井夏楓				
宇佐見清雅				
改組新第五回日展入選者				
第三十五回謊壳書法展				
入賞・入選者(順不同)				
謊壳新聞社賞				
田中修文				
秀 逸				
平富耀				
杉浦琇鈴				

平成29年度 収支決算報告書

1. 一般会計

(1) 収入の部

科 目		決算額(円)	予算額(円)
款	項	目	
1 会費収入	1 会費収入		
		1 理事・監事	10,000
		2 評議員会費	100,000
		3 正会員会費	404,000
		4 準会員会費	117,500
2 事業収入	1 事業収入		
		1 支部展収入	566,000
		2 支部学生展収入	1,408,000
		3 支部選抜展収入	0
		4 支部研修会収入	308,000
		5 支部講習会収入	0
		6 支部祝賀会収入	550,000
3 雑収入	1 雑収入		
		1 受取利息	2
		2 負担金収入	0
	2 本部より振替金	1 愛の募金寄託金	120,000
	前受金	前受金	
5 投資活動収入	2 特定資産取崩	1 支部積立金取崩	
		前年度より繰越	647,577
収 入 合 計		4,261,079	3,558,000

(2) 支出の部

科 目		決算額(円)	予算額(円)
款	項	目	
1 管理費	1 管理費		
		1 支部事務所費	470,541
2 事業費	1 書道振興事業費		655,000
		1 講演会費	74,673
		2 講習会費	92,000
		3 公開書道研修費	105,956
		4 研修会費	448,873
		5 選抜展費	0
		6 学生展費	1,276,864
		7 支部展費	768,530
		8 色紙展費	137,941
		9 書道振興事業費	133,000
		10 支部祝賀会費	550,000
			0
		1 愛の募金寄託金	100,000
	前受金	前受金支出	50,000
3 投資活動支出	1 特定資産取得支出		
		1 支部記念事業積立金	50,000
		次年度へ繰越	277,701
収 入 合 計		4,261,079	3,558,000



半田市感謝状表彰

半田市市制八十一周年記念式典
(十月一日)に於いて永年にわた
る寿色紙贈呈に関し感謝状表彰さ
れました。

支部行事予定

· 研修旅行

十一用半一田(日)

・支部集会・講演会

会場 クラシティ

平成三十一年三月

立川流 彰
講演会講師

立川芳郎尚富先生

上中尾のさ

社中風の探知役セ

○第二十一回移山会書展

立成三
一金

雁

佐藤・竹内・藤戸

(佐藤・竹内・藤戸)

内・藤戸